

8月のハイライト

- ・ オーバーホール開始に向けての環境整備
- ・ 8月8日 演奏会
- ・ ふいごの取外し
- ・ ペダルチェスト（風箱）の取外し・修復開始
- ・ 手鍵盤（マニュアル）パイプ取外し開始

➤ オーバーホール開始に向けての環境整備

作業を始めるに当たっての第一歩として、必要な環境整備を行いました。教育館奥の部屋をメインの工房として、工作機械や道具の導入・整備・据付けを行いました。



工房風景



川合兄・平野兄
作業机を製作

➤ 8月8日 演奏会

オーバーホール前最後の演奏会が8月8日に持たれました。横山正子姉に企画頂き、本年没後400年となるJ.P.スウェーリンクの作品を中心に、オルガンと礼拝との関わりについてレクチャー頂きました。

➤ ふいごの取外し

パイプオルガンはリコーダーのようなパイプ（笛）に風を吹き込むことで音を出す楽器です。この風は電動ブロワーで起こされ、ふいごに一旦貯められますが、この楽器のふいごは経年劣化で革にひび割れなどが発生していました。今回のオーバーホールではこの張替えを行います。

ふいごはオルガンの底に設置されているため、オルガンの下に潜って導風ダクトとの接続分離作業を行いました。ふいごはとても重量があり、また設置場所も狭い空間という作業性の悪さから取外しは困難が予想されましたが、荒木兄・赤澤兄・須田姉・中島姉にお手伝い頂き、無事取り外すことができました。

この作業の中で、オルガンの重量を支える柱にも大きな損傷があることが判明しました。こちらも今回のオーバーホールで修復を行います。



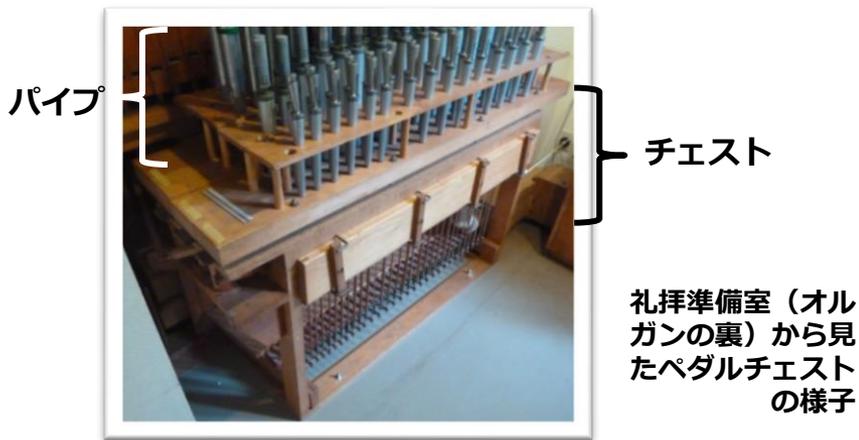
ふいごをオルガンの
底から取外している
風景



➤ ペダルチェスト（風箱）の取外し・修復開始

ふいごで溜められた風はパイプにいきなり行くのではなく、チェスト（風箱）とよばれる部分に導かれます。チェストにはマニュアル（手鍵盤）やペダル（足鍵盤）と繋がる多くのパレット（音高弁）や音色を選ぶストップ（レバー）と繋がるスライダー（音色弁）などが取り付けられています。奏者が弾きたい音高・音色のパイプだけに風が行くようにコントロールを行う、オルガンの心臓部とも言われる部分です。

橋本教会のオルガンでは、チェストに使われている革などの劣化が進み、甚大な風漏れが発生していました。本来、ふいごは風が貯まると適度に膨らむのですが、チェストからのあまりの風漏れのため、ほとんど膨らまない状態になっていました。（穴があいた風船にいくら空気を送っても、風船は膨らまないのと同じです）。橋本教会のオルガンには、各鍵盤（2段のマニュアルとペダル）に対応した3つのチェストが備えられています。今回のオーバーホールでは、このうちペダル用チェストはオルガン本体から取外し、工房内で修復を行うことにしました。そこで竹澤先生・川合兄・平野兄にお手伝い頂き、工房まで運びました。工房に運び込んだペダル用チェストは中島姉・須田姉にお手伝い頂き、劣化した革剥がしを始めています。



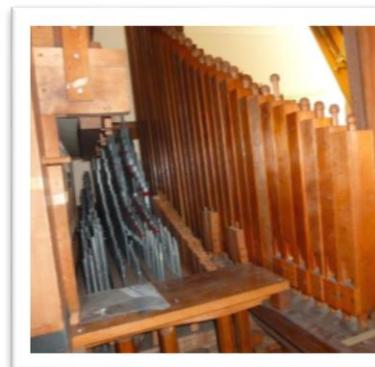
運搬中



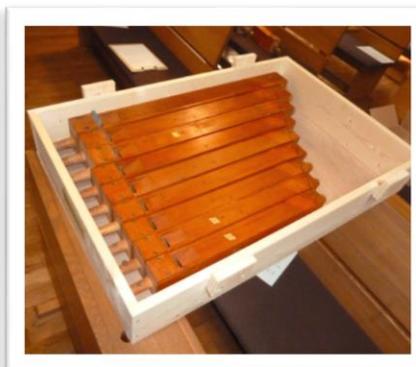
革剥がし作業

➤ 手鍵盤（マニュアル）パイプ取外し開始

オルガンのパイプは主に鉛・錫の合金で作られ、見た目とは裏腹にとても軟らかい素材です。これが災いし、橋本教会のオルガンのパイプは傷みが激しく、凸凹や曲がりなどが多数あり、これも修復する必要があります。この前段階として、マニュアルのパイプ取外しを開始しました。ただ外すのではなく、より良い音にするための調査も並行して実施しながら進めています。外したパイプを納める木製トレイ(14個)は川合兄・平野兄に製作頂き、とても役立っています。



オルガン内のパイプ郡
(左側：鉛・錫管 右側：木管)



パイプトレイに格納